

平成30(2018)年度 第2回とちぎ夢大地応援団カレッジ

「塩谷町 山口地区」

活動報告 H30.12.8(土)

12月8日、塩谷町山口地区で「とちぎ夢大地応援団カレッジ」活動を実施しました。今回は作新学院大学から、留学生が多くを占める（作大ローターアクト所属）より、社会貢献活動に関心の高い学生ら11名と教務課職員2名が参加し、一般ボランティア等に加わり、地元の人たちと合わせて約130人が、山林内に獣害防止用のメッシュ柵を取り付けました。「とちぎ夢大地応援団カレッジ」は、都市住民のボランティアと地域の人たちが協働で農村地域の保全に取り組む活動です。慣れない作業に一生懸命取り組みました。

今回担当した場所は、地中に石が多く、支柱を打ち込むのに一苦労。ベトナム出身で大学院で経営学を学ぶグエン・クアン・ダットさんは、力仕事に汗を流しながら「農業をやる人が少なくなっていると聞いているので、少しでも役に立てばうれしい」と話していました。

作業は、午前9時ごろから地元の人たちの心づくしの昼食を挟んで、午後2時ごろまで実施しました。約500mに柵が設置されました。同地区は、鹿やイノシシによる稲やソバの被害が大きく、2016年度には250万円余りに上がっているそうです。山口区獣害対策委員会の阿久津忠勝会長は、「地区でも柵の設置を行ってきたが、これだけ多くの人に参加してもらい、大きくはかどった。10年は持つということなので心強い」を感謝の言葉を語りました。

▶
一かんと作
日たので新
でのです。学
した。当院
が、日は大の
変お天学
肌気は生
寒は皆
いよさ





当日の早朝、宇都宮駅を発ちやや肌寒い現場に到着しました。慣れない雰囲気緊張した面持ちでしたが、山口区獣害対策委員会阿久津忠勝会長から、現地の様子説明を受け、何とか役に立ちたいと身が引き締まっていました。

なかでも鹿やイノシシによる稲やソバの被害が甚大だと語っていました。



次に各人へメッシュ柵設置の説明を担当指導員からレクチャーを受けました。

普段慣れない作業を伴うので、真剣に耳を傾けています。柵を固定する上で重要なのは、「ガチガチに設置するのではなく、やや遊びを設けてしなやかに設置して欲しい」とそのポイントを教わりました。



現場に到着しました。早速、初めに指導を受けたメッシュ柵の設置を任されました。

地中に石がゴロゴロしており、なかなか作業が捗りません。思うように作業が進まず焦ってしまう場面もありました。最後に指導員からチェックを受けて次へ進みます。



地元の人たちの心づくしの昼食をいただきました。

メニューはカレーライスと豚汁でした。比較的寒い一日でしたので、温かな豚汁が身に染みます。

また、中国出身のリュウ・サルさんは初めてのカレーライスだったようで、「日本のお米はとても美味しい」と大変嬉しそうでした。